

北海道美瑛高等学校

課程 全日制
学科 普通科
生徒数 163名

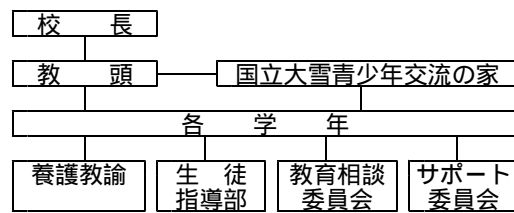
1 取組の特徴

国立大雪青少年交流の家職員や富良野グループの講師によるコミュニケーションスキルを高めるトレーニング活動を実施するとともに、地域との連携を図ったボランティア活動に生徒を参加させるなど、コミュニケーションスキルを生かす機会の充実を進める。

2 取組のねらい

周囲とのコミュニケーションをとることを苦手とする生徒が増えており、対人関係のトラブルや学校生活への不適応が課題となっている。
このため、生徒のコミュニケーションスキルを高める取組を継続的に行うとともに、生徒の社会性や自己有用感を高めるため、ボランティア活動の推進に取り組む。

<組織図>



3 取組の経過

5月12日(土)

希望者による町主催事業「缶トリー作戦」でのボランティア活動の実施(80名参加)

6月5日(火)

高校生ステップアップ・プログラムについての校内研修会

6月10日(日)

全学年による町主催事業「美瑛ヘルシーマラソン」でのボランティア活動の実施

6月13日(水)

全学年を対象に「アセス」実施

9月12日(水)

1年生宿泊研修においてコミュニケーション能力を高めるプログラムを実施

11月21日(水)

2年生を対象に演劇的手法を取り入れた体験活動の実施

1月23日(水)

全学年を対象に「アセス」実施

2月22日(金)

職員会議において本事業の成果の報告と次年度の取組内容の確認

4 取組の内容

1 町主催事業「美瑛ヘルシーマラソン」でのボランティア活動

(1) 日時 平成24年6月10日(日)

(2) 対象 全校生徒(163名)

(3) ねらい 異年齢の人々との交流を通して、ボランティアの意義を学び、自己有用感を体験させる。

(4) 内容 マラソンの受付補助、給水所及びゴールでの給水補助、ゴールチップ外し、表彰、伴走など

(5) 成果 終日、大会ボランティアとして運営に協力することで、生徒は参加者から感謝され、「人に役立っている」という自己有用感を感じていた。



4 取組の内容

2 「アセス」の実施（第1回）

- (1) 日 時 平成24年6月13日（水）
- (2) 対 象 全校生徒（163名）

3 演劇的手法を取り入れた体験活動の実施

- (1) 日 時 平成24年11月21日（水）
- (2) 対 象 2年生全員（40名）
- (3) ねらい 生徒間で心を開き合う人間関係の構築を目指し、相手を思いやる心や他者を理解する想像力を「演劇的手法」によって育む。
- (4) 内 容 「演劇的手法」を取り入れたアイコンタクトやジェスチャーゲーム（「進化じゃんけん」、「兵隊さんゲーム」、「わたし・あなた・わたし・あなた」）など
- (5) 成 果 富良野グループ講師の指導の下、ゲームの中で、声の調子や目の合わせ方の訓練に熱心に取り組んだ。この活動を通して、他者に自己の思いを伝え、他者の思いを想像し、良い人間関係を築く方法を体験できた。



4 「アセス」の実施（第2回）

- (1) 日 時 平成25年1月23日（水）
- (2) 対 象 全校生徒163名

5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 「アセス」の分析結果を見ると、昨年度から継続してコミュニケーションスキルトレーニングに取り組んでいる2年生は、学校生活への満足度が低い生徒が他学年よりも少ない。
- (2) 1年生について、2回目の「アセス」では1回目の「アセス」と比較して、友達から認められ、拒否的・否定的な友達関係がなく、友人関係が良好であると感じている生徒が増えたことを示す数値が表れた。
- (3) 各学年のHRや特別活動等においては、生徒同士が主体的に話し合う様子が以前より見られるようになってきた。

2 課題

- (1) 「アセス」の結果からは、生徒のコミュニケーションスキルが向上しつつある傾向が見られるが、個別に教育相談を行い、継続的な支援が必要な生徒が少なくないことから、ピアサポート等の様々な人間関係づくりの実践に取り組む必要がある。
- (2) 生徒が積極的にコミュニケーションスキルを生かす機会を意図的・計画的に設定し、生徒のコミュニケーション能力を高めていく必要がある。

3 次年度に向けて

- (1) 今年度は1年生と2年生を中心に取組を進めたが、本事業が終了する次年度以降については、3年生においても継続して取り組み、全校的な取組として充実させたい。
- (2) 今後、国立大雪青少年交流の家や地域の教育資源と連携を図り、学校行事や授業において、生徒のコミュニケーションスキルを一層高めていく取組を行うとともに、地域のボランティア活動に積極的に参加するなど、コミュニケーションスキルを生かす機会の充実に努めていく。